

介護職員基礎研修課程カリキュラムおよび日程表ー6

2. 実習						
①事前演習						
	日時	実施場所・人数等	担当指導員氏名	実施内容及び実施方法	経験目標	修了評価の方法
	5月27日 8:30～17:30 (8時間)	各実習先	前川 春美	基本的な介護技術の習得の有無を確認 事故防止の留意点を理解 実習記録の書き方を理解	実習の目的・経験目標について説明を受け、自らの問題意識を整理する。 実習中の態度・心構え(挨拶服装などマナー/実習態度/職員との関係→報告、連絡、相談/利用者との関係→守秘義務・個人情報保護、健康管理)について説明を受ける。 事故防止のための注意点、基本的な介護業務の方法・留意点について、指導を受ける。 実習記録の方法(書き方・留意点)について、指導を受ける。 実習先の施設・事業所の概要や特徴、実習日程について説明を受ける。	1. 実習を円滑に実施するため、研修事業者において、実習の目標、スケジュール、留意点等についてオリエンテーションを行い、実習の課題・問題意識を形成する。 2. 演習等により、基本的な介護技術の習得の有無を確認するとともに、事故防止の留意点を理解させる。 3. 実習記録の書き方を理解させる。
②実習						
細目	日時	実施場所・人数等	担当指導員氏名	実施内容及び実施方法	経験目標	修了評価の方法
ア施設・居住型実習	6月6日 8:30～17:30 (8時間)	別紙参照	前川 春美	オリエンテーション、施設見学、職員紹介。 利用者への紹介。	施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける 各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける。	介護にあたっては、利用者の個別性や人間関係を理解するための着眼点を理解できるように留意する。
	6月7日 8:30～17:30 (8時間)			<初日～5日> ・ 一日の生活の流れを把握。 ・ 医療器具、福祉用具の使用法、取り扱いについて説明を受け、使用場面を見学する。	申し送りの場面を見学する。 カンファレンスを見学する。 介護記録や、ケアプランを閲覧する。	介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解できるよう指導する。
	6月8日 8:30～17:30 (8時間)			・ PT、OT、ST等による機能訓練の見学。 ・ 利用者とのコミュニケーション。	PT、OT、ST等による機能訓練の場面を見学する。 主な医療器具や福祉用具の使用場面を見学する。 自立のための福祉用具の使用法、取り扱いについて説明を受ける。	
	6月9日 8:30～17:30 (8時間)			・ レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法等に利用者とともに参加。 ・ 補助業務(食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等)。	居室の環境、バリアフリーなどを見学する。 環境整備の方法について説明を受ける。 ボランティアの活動状況や内容等の説明を受ける。	
	6月10日 8:30～17:30 (8時間)			・ 軽度者の食事・口腔ケア、衣類の着脱、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を職員指導下で体験。	地域の関係機関等との連携について説明を受ける。	
	6月13日 8:30～17:30 (8時間)			・ 申し送り参加。 ・ 実習記録。	主な福祉用具(車椅子、自助具等)を利用している利用者の介護を経験する。	

(別紙様式 4)

	6月14日 8:30~17:30 (8時間)			(<初日~5日>の内容を深めるとともに、 下記を加える) ・カンファレンス見学。	できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。認知症高齢者についても、コミュニケーションの機会を持つ	
	6月15日 8:30~17:30 (8時間)			・重度者への食事・口腔ケア、衣類の着脱、排泄、移動・移乗、体位変換を職員指導下で体験。 ・一人の利用者について、個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察したことをまとめ、可能であれば模擬的に生活プラン、ケアプランを立案する	補助的業務（食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等）を経験する。 レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に、利用者とともに参加する。	
	6月16日 8:30~17:30 (8時間)			・記録、ケアプランを閲覧する ・各職種からの聞き取り、あるいは意見交換等を行う。 ・実習反省会。	軽度および重度の利用者について、食事・口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を、職員指導下で経験する	
	6月17日 8:30~17:30 (8時間)				一人の利用者を決めて、その人の個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、その人らしさについてまとめをする 実習記録を作成する。	
ア小計	80時間					

介護職員基礎研修課程カリキュラムおよび日程表ー7

2. 実習						
②実習						
細目	日時	実施場所・人数等	担当指導員氏名	実施内容及び実施方法	経験目標	修了評価の方法
イ通所・小規模多機能型実習	6月20日 8:30~17:30 (8時間)	別紙参照	前川 春美	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション、職員紹介。 ・ 施設見学、職員紹介、利用者紹介。 ・ 一日のプログラムを把握。 ・ 配膳、環境整備。 ・ 送迎時の介護、送迎車乗降介護の補助。 	施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける。 各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける	通所系サービスの機能・内容、および他の居宅サービスとの連携を理解できるよう留意する。
	6月21日 8:30~17:30 (8時間)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 到着後の健康状況観察補助。 ・ 私物持参品の管理補助、個別生活支援。 ・ 利用者とのコミュニケーション。 ・ プログラム、行事への参加 ・ 食事、口腔ケア、衣類の着脱、排泄、入浴、移動・移乗等の介護または補助を職員指導下で体験。 ・ カンファレンス見学。 	居宅介護支援事業所、地域支援包括センター、医療機関等、地域の関係機関との連携について説明を受ける。 カンファレンスを見学する。 介護記録や、ケアプラン、通所介護計画、介護予防通所介護計画を閲覧する	介護にあたっては、利用者の個性や人間関係を理解するための着眼点を理解できるように留意する。
	6月22日 8:30~17:30 (8時間)			<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録・通所介護計画等を閲覧する。 ・ 実習記録。 ・ 実習反省会。 	基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する。 介護予防プログラムを見学する。自立のための福祉用具の使用方法、取り扱いについて説明を受ける	また、介護目標を踏まえて、自立に向けた介護の考え方やプロセスを理解できるよう指導する。
	6月23日 8:30~17:30 (8時間)				環境整備の方法について説明を受ける。 送迎時の介助補助、健康状態の観察、私物持参品の管理補助を経験する。 できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。	
ウ訪問介護実習	6月24日 8:30~17:30 (8時間)		前川 春美	<p>事業所の概要や特徴、取り組み、利用者、職員体制について、説明を受ける。</p> <p>事業所内での業務（チームケアのシステムや業務管理のしくみ等）について、説明を受ける。</p> <p>居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関等、地域の関係機関との連携について説明を受ける。</p> <p>訪問記録、訪問介護計画等を確認・閲覧する。</p> <p>サービス提供責任者や担当ヘルパーに同行し、介護や利用者の生活環境に応じた家事援助の内容、工夫、利用者との接し方等を見学する。</p> <p>利用者、家族とのコミュニケーションの機会を持つ。</p> <p>可能な範囲で、身体介護、家事援助を経験する。</p> <p>実習記録を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問介護サービスの機能・内容、および他の居宅サービス、関係機関との連携や、社会資源の活用状況等について理解できるよう留意する。 ・ 関係機関との連携や、社会資源の活用状況等について理解できるよう留意する。 ・ 利用者を取り巻く家族関係を理解し、配慮することの重要性を理解させる。 ・ 在宅の生活、利用者の日常生活の多様性、および介護の工夫の現状と自立にむけた支援の考え方について理解できるよう留意する。 	
イ、ウ小計	40時間					

(別紙様式4)

工地域の社会資源実習	6月25日 9:00～15:00 (4時間)		前川 春美	地域の社会資源（介護保険事業以外のNPO、ボランティアグループ、当事者団体、社会福祉協議会など）を訪問し、活動の見学や、活動者に対するインタビュー等を行い、地域の中で暮らしを豊かにしていくための活動・サポートのあり方を考察する。	地域全体の社会資源、サポートシステムについて、理解できるように留意する。	
③事後演習						
	日時	実施場所・人数等	担当指導員氏名	実施内容及び実施方法	経験目標	修了評価の方法
	6月27日 8:30～17:30 (8時間)			実習中に記録した実習の経験内容、気づき、反省点、自己の介護観等をまとめ、目標および計画に照らして、達成状況を確認する。 実習終了後、以下の点について、自己を振り返り、お互いに発表、話し合い・検討を行う。 ○実習全般を通して率直な印象や感想、気づいたこと・学んだことについて。 ○基本的な介護技術に基づいて介護できたか、また介護の根拠について。 ○自己の介護技術において、自分としてうまくいった点、うまくいかなかった点、およびその背景や理由について。 ○職員との関わりや利用者との関わりにおいて、自分としてうまくいった点、うまくいかなかった点、およびその背景や理由について。 ○疑問な点や不安な点、および今後、それらの疑問や不安に対して介護職員としてどう考えるべきか、どう対処すべきかについて。 ○現段階での、介護職員としての自己の今後のあり方（目標、課題）について。 ・介護過程の観点から、介護職員の職務や記録の書き方について、振り返って考察する。 ・利用者の生活やニーズを出発点に、フォーマル・インフォーマルの社会資源の役割、および介護職員の役割や業務について、振り返って考察する。	・個々人が実習の経験・気づき、自己の介護観等をまとめさせるとともに、個々人の経験を比較・相対化し、学びの共有化、意味付けを行う。 ・介護の現場における理想と現実の違いについて理解・認識を促す（例：現場で「できていないこと」を責めるのではなく、どのようにしてできるようにしていけるかを自分なりに考える機会にさせるなど）。 ・実習は介護の現場を体験的に理解する場であり、その経験がすべてではないことを理解させること。 ・介護行為の根拠となっている知識や基本的な介護技術を再認識させる。	
2の合計	52時間					

注1 「科目の細目」欄には、基本細目名又はその読み替えにより事業者毎に定める細目名を記載する。細目数が多く、欄が足りないときは、適宜追加して記載する。

注2 講義を通信の方法で行う場合、「通信相当分」欄に、通信で学習する内容に相当する講義時間数（科目毎に別紙4に定める時間数を上限とする）を記載する。

注3 「担当講師」の「番号」及び「要件」欄には、講師一覧表（別紙様式5）に記載した「番号」及び「講師要件」を転記する。

注4 「実施内容及び実施方法」欄には、以下の内容を記載する。欄内に記載できない場合は、科目毎に別葉に記載する。

・基礎理解とその展開：講義及び演習の内容（介護職員基礎研修カリキュラム（別紙1）に示す『「基礎理解とその展開」各科目の到達目標、評価、展開』「イ内容例」「内容」に示す項目名、あるいはその読み替えにより事業者毎に定める項目名）及び方法（講義及び演習の具体的進め方等）を記載する。

・実習：各日の実習内容及び方法（介護職員基礎研修カリキュラム（別紙1）に示す『実習の経験目標、展開例』「展開例」を参考に事業者毎に定める実習内容及び流れ）を記載する。

注5 「到達目標」欄には、介護職員基礎研修カリキュラム（別紙1）に示す『「基礎理解とその展開」各科目の到達目標、評価、展開』「ア 到達目標・評価の基準」の、「修了時の評価ポイント」にある番号（1-1～10-13）を記入する。

注6 「経験目標」欄には、介護職員基礎研修カリキュラム（別紙1）に示す「実習の目標、評価、展開」「経験目標」にある番号（ア-1～エ-1）を記入する。

(別紙様式 4)